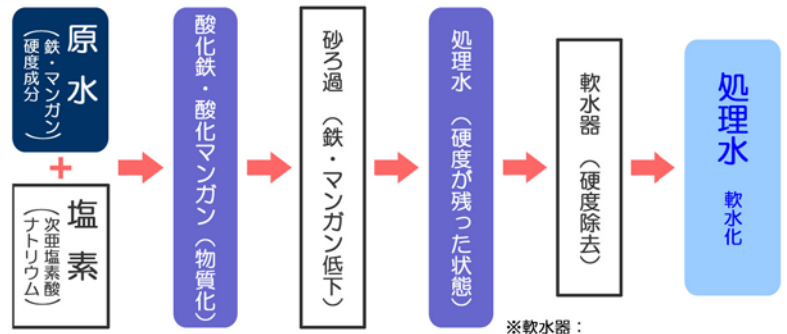


接触酸化方式 (一般的な除鉄・除マンガン)

原水中に含まれる、鉄・マンガンなどに、次亜塩素酸ナトリウムなどの酸化剤を注入し、強制的に酸化物質化させ、それらを砂ろ過器などの装置でろ過することで、鉄・マンガンを除去する方法です。
(ろ材には、砂・セラミック粒・バーム・アンスラサイトを用います。)



※軟水器：
硬度成分はカルシウム・マグネシウムの複合体を指し、軟水器とはこれらに適したイオン交換樹脂を用いて成分を除去する装置を指します。
(定期的に再生を必要とします。)

- ▲ 2ppm 以上の高濃度除鉄・除マンガンが困難
 - ▲ 除鉄と軟水化が同時にできない (軟水器別途必要)
 - ▲ 大量の処理水を必要とし、逆洗と再生に時間がかかる
 - ▲ 高濃度の塩素により配管などに腐食が起こる
 - ▲ 設備が大きく場所をとる
 - ▲ ろ過器の保守のコストが高い
- 塩素を使用するためそのまま殺菌が可能
 - 安価な塩素で除鉄が可能



イオン交換方式 (オーセンテック) (WB700・カスタムシリーズ)

イオン交換樹脂を用いた水処理装置の方式で、その特徴は、原水中に含まれる陽イオン・陰イオンを、その特性に合った樹脂素材を選択して使い、磁石が砂鉄を吸い付けるがごとく含有成分を吸着し、水処理を行うものです。



- 高濃度でも除鉄・除マンガンが可能!
 - 除鉄・除マンガンと軟水化がたった1台で可能!
 - 少量の水で、再生が可能! しかも短時間!
 - 塩素を使用しないので腐食の心配がなく安全!
 - 省スペースで設置OK!
 - 使用水量に見合った再生でボイラーソルトを節約!
- ▲ 殺菌できない (殺菌器別途必要)
 - ▲ 酸化している鉄やマンガンは除去ができない